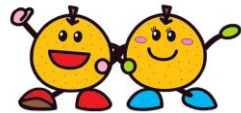


そろそろおいしい  
梨のシーズンだよ!



男女共同参画だより

No.32平成28年夏号

やちゆ

あ

男性の活躍を応援します!!

「好きなこと」「できること」探しませんか



### 魚をさばいたことありますか?

当センターで活動している「男の  
だいどこ」の皆さんが、県のおさかな普及員の手ほどきで、アジをさばいて、なめろうや、さんが焼きを作りました。少々手間のかかる調理にも、仲間と一緒に挑戦しています。

昔と違って、男性は退職したら隠居という話を聞かなくなりました。平均寿命は80歳を超え、仕事中心だった生活を終えてからは、自分のための時間を大いに楽しむことができます。しかし環境が急に変わったことで何をしたいのか、何ができるのかが分からなくて、立ち止まってしまうこともあります。

男女共同参画センターでは、男性の地域デビューを応援する講座を開催しています。いろいろなことにチャレンジして、地域とのつながりを持ち、仕事では得られなかった生きがいや、やりがいを探してみませんか。

### 男女共同参画センター 男性向け講座

#### ■男の料理ビギナーズ編・全2回

○11月5日(土)・19日(土)9時30分~1時30分  
買い物から片づけまで学べる初心者向けの講座です。9月15日(木)から申し込み受け付け開始

#### ■男性の初級介護講座

「ケアメンになろう」・全3回  
2月に実施する予定です。



# 災害は、他人ごとではありません

## あなたの防災準備大丈夫？

東日本大震災から5年が経ち、今度は熊本で大地震が発生しました。想像を超えた状況を目の当たりにして、どこか信じがたい気持ちになっている人もいることでしょう。

しかし、災害はいつ私たちの身にも起きるか分かりません。慌ただしい毎日の中でも、意識を持つように心がける必要があります。

特に女性の視点で防災を考えることは、とても大切なことです。今までの震災の経験を生かしながら、災害が起きたときのことについて考え、女性の意見も反映していくことができれば、今よりしっかりとした備えをすることができます。

## なぜ、女性の管理職を30%にする必要があるの？

マイノリティという言葉が最近よく耳にしますね。意味は少数・少数派のことです。

人口の比率でいうと、女性はわずかに男性より少ないくらいですから、少数派とはいえません。しかし、政治や経済の分野では、女性の議員や管理職の数はとても少ないのでマイノリティだといえます。

一般的に、少数派の意見は、なかなか聞き入れてもらえないものです。ですから、男性10人の中に女性が一人では、多数派

の男性に合わせてしまったりして、本来の力を発揮することはできません。

マイノリティの占める割合が30%を超えると、多数派に合わせることなく、その能力を生かすことができるといわれています。これは、女性の管理職のことに限らず、さまざまな場面で共通していえることで、30%という数字には大切な意味があります。



### 避難所で女性が困ったこと その1

#### 「知らない男性がすぐそばにいて・・・」

無事に避難所に着いたものの、周囲には知らない人がいっぱい。しかも、男性も女性も一緒なので、着替えも授乳もできません。

仕切りがない所では、目が覚めると隣に知らない男性が寝ていたということもありました。



### 避難所で女性が困ったこと その2

#### 「夜はトイレに行けませんでした」

災害用トイレは、人通りが少ない場所に設置されることが多かったため、夜は暗くて物騒で女性が利用するにはとても不便でした。実際、事件も起きていたそうです。

トイレに行くのをがまんして、水分を控えていたために、体調を崩す高齢者もいました。



### 避難所で女性が困ったこと その3

#### 「男性が女性の下着を配給」

男性からすれば「非常時なのに、そんなことを言うのはわがまま」というようなことかもしれない。でも、女性にとってはすごく恥ずかしかったり、いやだったりすることです。生理用品や下着のことは、女性同士の方が話しやすいし、抵抗も少なくすみずみです。



### 避難所で女性が困ったこと その4

#### 「洗濯物が干せませんでした」

自分の下着が人目にさらされるのはやですよね。共有の物干し場では、下着干すことができずに困ったそうです。

### 避難所で女性が困ったこと その5

#### 「子どもが夜泣きして」

環境の変化に、子どもは敏感です。普段と違うただならぬ雰囲気を感じて、夜泣きが止まらなくなることもありました。

避難所にはさまざまな人がいます。中には「うるさい」と怒る人も。周囲に気兼ねして、外に出たり避難所を転々としたりしたお母さんもいたそうです。

避難所で発生する問題を知っていれば、災害が発生する前に対策を考えていざというときに対応できます。

女性の皆さん、避難所のことは誰かがやってくれるだろうと、男性に任せきりにしていませんか。

女性も自主防災や避難所運営などの自分の地域の会議に積極的に参加して、一緒に考えながら見直すことで、災害に強い地域を作ることができます。家族や地域を守るためには、女性目線の意見と活動への参加が重要です。

# 女性起業家の見本市～やちよの素敵なお店コレクション～

明るく華やかな雰囲気になりました



男女共同参画週間事業として、6月25日(土)に「女性起業家の見本市～やちよの素敵なお店コレクション～」を開催しました。当センターで見本市を行うのは、これが初めてです。市内には、女性オーナーが経営する、魅力的な店舗がたくさんありますが、まだまだ知られていません。このイベントは、地域の素敵なお店の紹介と、参加した起業家同士の交



流を図って、働く女性の活躍支援につなげることを目的に計画しました。当日は、Café、マッサージ、ネイル、アクセサリーなどの小物やフラワーアレンジメントなど、さまざまな業種37店舗が出展。明るく華やかな展示ブースと、デモンストレーション、ピアノ・バイオリンの生演奏があり、166人が来場して笑顔と笑い声でいっぱいになりました。当センターも主催事業の紹介を展示しました。



## 男女共同参画のお話し

新しい東京都知事が決まりました。東京オリンピック開催や、待機児童問題などたくさんの課題をこれからどうやってクリアしていくのか、都民に限らず多くの人々が期待を持って見つめています。日本は政治分野での女性の参画が遅れていて、性別による偏見も未だに残っています。しかし、そういうフィルターを捨てて、個人の持つ資質に目を向けていく機会になればと思っています。

発行：八千代市

男女共同参画課 ☎047-485-7088

男女共同参画センター ☎047-485-6505

住所：八千代市八千代台南1-11-6

